

平成 19 年度学術ポータル担当者研修レポート

高知大学総合情報センター（図書館）

大川陽子（受講者番号：7-1）

小吉百合（受講者番号：7-2）

(1) 発表資料の状況設定

対象者：教授会に出席する教員および事務担当（理系学部を想定）

内 容：機関リポジトリとは何かから説明して理解してもらい、コンテンツとなる学術雑誌に掲載された査読論文を提供してもらうため、アピールを行う説明をさせてもらう。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

パワーポイント資料の構成

1. 本日も話すること
2. 機関リポジトリとは？
3. リポジトリ登場の背景
4. 現状：世界の動向
5. 現状：国内の動向
6. 高知大学学術情報リポジトリとは？
7. 研究者にとってのメリット.....1~2
8. 大学にとってのメリット
9. 何を搭載するのか.....コンテンツ 1~4
10. 著者最終稿について
11. 高知大学学術情報リポジトリ
12. 搭載までの流れ
13. コンテンツのご提供方法
14. 今後のスケジュール

当日の講師からの助言、質問

質問：医学部でのプレゼンテーションを前提にしているようだが、PubMed とリポジトリの関連性はどうなっていますか？
業績データベースとの関連は？

助言：PubMed Central や 医学中央雑誌刊行会のデータベースへの採択基準などを一度調査してまとめておく方が良いのではないのでしょうか。

改訂部分

- ・リポジトリ登場の背景をもう少し簡潔にし、最近のアメリカの情勢として、NIH（国立衛生研究所）の助成金を得た研究者の論文は PubMed Central へのデポジットが義務化されるかもしれないなど、オープンアクセスの動きを口頭説明に追加した。
- ・導入のメリットを追加して詳しく説明するようにした。
- ・今後のスケジュールについて日程を表示した。

(3) リハプレゼンの概要

日 時：平成 19 年 8 月 1 日（水）13：30～14：30

場 所：高知大学総合情報センター（図書館）電子会議室

発表者：小吉、大川

発表対象：学術情報課職員

参加人数：14 人

(4) リハプレゼンへの反響

プレゼン後に出された意見、質問

- ・論文の提供を依頼しているのに、締め切りの表示がないがそれでよいのか？
 - * 締め切りはなく、今後継続的に受け付ける。
- ・10 月試験公開を目指すのであれば、もう少し具体的なスケジュールを明記する必要があるのでは？
 - * 具体的な期日を入れて説明するようにする。
- ・搭載データの提出時に必要な書類を明確にすべきでは？（著作権に関するものなど、、、）
 - * 著者には公開許諾書を提出してもらう。
 - * 共著者については今後検討する。
- ・リポジトリのメリットをもっと何かないか提案する。
 - * 論文引用率が高まる可能性
 - * 別刷り送付依頼を受けた場合に、「リポジトリに載せています。」と答えることにより研究者間のやり取りの手間が省ける。

(5) その他（現在の進行状況、問題点など）

進行状況

- ・全学部の教授会の開始前に 15 分ほど時間をもらい、プレゼンを行った。
- ・先行公開大学さんを、見学させてもらった。

- ・ 担当 WG のメンバーが分担して、NII から提供をうけた紀要論文を登録している。

発覚した問題点など

- ・ 学内の認証制度や、セキュリティーの関連から、公開の困難さが発覚した。
- ・ DSpace v1.3.2（導入時）から v1.4.2 へのバージョンアップを実施するよう調整中。
- ・ コンテンツの収集に努力する時期にきているが、収集に伴う提出書類や規定等がまだ整っていない状態である。12 月までになんとか間に合わせたい。